

シャボン玉液作り

社会福祉法人友愛福祉会 伊丹ひまわり保育園（兵庫県伊丹市）

[4 歳児]

シャボン玉の液作れるの？

進級したばかりの 4 歳児が散歩に行った時、公園のタンポポの綿毛を夢中になって吹いていた。3 歳児の時にシャボン玉遊びが大好きだった姿を思い出した担任は、シャボン玉遊びを楽しめる環境を作った。

シャボン玉を楽しんでいた A 児は、絵本コーナーで「しゃぼんだまと あそぼう」(文と構成:杉山弘之、杉山輝行 写真:吉村則人 絵:平野恵理子 発行:福音館書店)という絵本を見つけて読み、「先生、シャボン玉の液って、作れるの?」と言った。集まって来た数人の友達とA児は、作り方の載っている頁を開けて、必要な物を確認した。「お湯と石鹼って書いてあったよ」「お湯は石鹼を溶かすためって、書いてあったよ」などと話しながら、手洗い場に石鹼を探しに行く。小さい石鹼を見付けると「削って、書いてあった」と言い相談しているの、保育者は削ってもよい石鹼やお湯を用意した。粘土用のヘラで削っては溶かして試していたが、シャボン玉は膨らまず失敗する。

A児が「もっと石鹼、細かい方が溶けるかも?」と言ったので、保育者はおろし器の話をする。「この前、大根下ろしに使ったやつ!」と気付き、あることが分かると使って黙々と石鹼を削る。

C児「うわー、サラサラの石鹼だ」A児「これなら、溶け易いと思う」B児「混ぜないと溶けないよ」などと話しながら作業を進め、「10 分から 15 分って、どのくらい?」と、本に書いてあった冷ます時間も意識して、冷ます時間にシャボン玉の準備をする。

何で、できないんだろう?

作ったシャボン玉液を使い、ウチワやスダレ、泡だて器でたくさんシャボン玉を作り楽しむ。

その中の数人は、「指、離したらあかんねん。ずっと付けといて、指の輪っかを作るねん」と言いながら、手でシャボン玉を作ることに挑戦する。

遊び終わると「ウチワはすごくいっぱいできたで」「スダレもすごかった」「小さいのがたくさんできたけど、フワフワ飛ばなかったよ」「でも、スダレは液を付けにくかった」「でも、プルー一杯のシャボン液だったら、いっぱい付いたと思う」「泡だて器も面白かったな」「泡だて器でやっても、シャボン玉丸くなんねん」と喜んで話していた。

しかし、数名は、「何で、手でできなかつたんだろう」と話題にした。



「ストローやウチワだったらすぐできるのに、手だったらすぐに壊れるの何でだろう?」とA児が言うと、「お母さんが、「お皿を洗う洗剤は石鹼より膨らむかも」って言った」とB児が言った。「みんなはどんなシャボン玉が作りたいのか?」と話し合い、「手で作っても割れにくいやつ」ということになり、家で調べてくることにする。すると、液体石鹼や洗濯糊、ガムシロップや砂糖、缶詰のシロップ、ゼラチン、炭酸などの材料が分かり、いろいろ作って試す。「お風呂で体からシャボン玉ができた」という話から、ボディークリームも試すことにする。

< 固形石鹼、洗濯糊 >
「洗濯糊入れたらよく膨らむ」
「でも、飛んでいかない」

< 液体石鹼、洗濯糊 >
「よく膨らむけど、前より強く吹かないといけない」
「でも、飛んでいかない」

< ボディーソープ、洗濯糊 >
「よく膨らむ」「石鹼1杯に水が 20 杯のが作り易い」
「大きいのが作れるねん」
「指入れても割れへん」



シャボン玉の液を作ることや手でシャボン玉を作ることなど、保育者が当初予想していなかった方向に広がった。また、「割れにくいシャボン玉の液を作る」ということの解決のために、保護者の協力を求めたことにより、家で調べたことを自信をもって発表する姿につながった。子どもたちは「シャボン液」「手で作る」「吹く力」について、遊びの中で学んでいる。

みどころ タンポポの綿毛で遊ぶ姿と、前年度の子どもたちの実態から保育者は「シャボン玉遊び」を想定しています。子どもに寄り添い保育の方向性をもつことが、環境作りに結び付いたことで、子どもたちの意欲的な遊びが展開しました。また、液やシャボン玉の作り方を探求する遊びや、「飛んでいく」「割れにくい」という「イメージをしたシャボン玉」ができるように試行錯誤する遊び、石鹼液と水の関係にも気付くやりとりなどから、遊びを通して「科学する心」が育まれる体験が把握できます。